

平成28年度金融庁調達改善計画の概要

現状分析

- 平成26年度における金融庁の調達
- 契約種別（単位：件、百万円）

契約方式		件数	金額
競争性あり	競争入札	107	1,027
	企画競争	7	92
	公募	34	441
	不落・不調	4	10
競争性のない随契		46	365
合計		198	1,936

- 応札状況（単位：件、百万円）

	一者応札件数 (割合)	一者応札金額 (割合)
競争入札	30 (28.0%)	474 (46.2%)

<一者応札に至った主な要因>

- ①入札時期、契約時期及び納入時期に起因する業者の要員不足
- ②調達内容や入札参加要件に関する説明不足及びそれに起因する業者の理解不足
- ③業者に入札参加を促す働きかけの不足

- 調達経費の内訳（単位：件、百万円）

	契約件数	金額
システム関係費	94	1,336
物品製造・購入費	28	174
委託調査費	16	89
その他	60	337
合計	198	1,936

調達改善の主な取組内容

共通的取組

- 一者応札の改善
- ・事後審査の実施(アンケート調査)及び改善策の提示
- ・仕様書の記載の適正化
-システムの特長等を具体的に記載
- ・メールマガジンによる情報配信
- ・入札参加予定者の発掘
-複数の契約実績者への声掛け
- ・公告期間の確保
-入札前日から10営業日確保
- ・入札説明会の開催増加

重点的取組

- ・複数年度にわたり同一事業者による一者応札が継続している場合
⇒公募への移行を検討
- ・公募に移行する場合
⇒適切な仕様・調達予定金額とするため価格交渉の実施を検討

継続的取組

- ①情報システムに関する取組
 - ・仕様・調達予定金額の適正性審査
-CIO補佐官等による審査を実施
 - ・過去の指摘事項活用による妥当性等検証
 - ・運用・保守業務の積算の精査や契約形態の見直しを検討
 - ・国庫債務負担行為の活用
- ②随意契約に関する取組
 - ・少額な契約への対応
-オープンカウンターの活用
- ③一者応札に関する取組
 - ※共通的取組に記載
- ④汎用的な物品・役務に関する取組
 - ・共同調達の実施
 - ・発注単位の集約
- ⑤その他の取組
 - ・研修の実施

自己評価

- ・上半期(4～9月)終了後及び年度終了後に実施
- ・自己評価結果をその後の調達改善の取組や調達改善計画の策定に反映

推進体制等

推進体制

総括審議官を統括責任者とする「行政事業レビュー推進チーム」が調達改善を推進

外部有識者の活用

行政事業レビュー及び契約監視委員会の外部有識者の意見を活用

内部監査の活用

内部会計監査において、調達改善計画の進捗状況を監査項目とし、検証や評価を行う